

亜町娛樂部

理事	副理事	會計	會計監査	理事	書記	演藝部長	舞臺	運動部	映画部
吉澤康利	川島充因	藤野新七	生田九八	堂井四方三	山根信藏	小林百次郎	大室幸次	野澤謙次郎	山田友吉
齋谷三川	齋谷三川	齋谷三川	齋谷三川	齋谷三川	齋谷三川	齋谷三川	齋谷三川	齋谷三川	齋谷三川

亜町醫師後援會

會長	副會長	會計	會計監査	書記	理事
寺見高志	今野豊次	山根信藏	川島充因	倉本覺	吉野利二
藤野新七	西崎友太郎	原谷岩吉	米村伊周	奥野正二郎	生田九八
山田友吉	齋谷三川	齋谷三川	齋谷三川	齋谷三川	齋谷三川

11K

亜町病院

醫師	齒科	藥劑	事務	可辱長
植山南	山田宗三郎	檜垣益一	橋本木テ	奥野正三郎
中野シヨシ	中野シヨシ	中野シヨシ	中野シヨシ	中野シヨシ

亜町赤十字支部

會長	副會長	會計	主務	書記	理事
寺見高志	齋谷三川	齋谷三川	齋谷三川	齋谷三川	齋谷三川
齋谷三川	齋谷三川	齋谷三川	齋谷三川	齋谷三川	齋谷三川

亞町轉住所沿革

□コロラド州ブローア郡アーカンソー河畔に近き、人煙稀な眩原に、折柄開設工事中の此原がラナダ轉住所へ、中加マセド集合所がう、二百十二名の牛養隊が到着したのは、四十二年八月二十七日であつたが、以後八回に亘つて、合計より陸續として來着した者總計四千四百九十二名に達し、當時ある部落には、電燈、用水、食堂設備未だ完成せず、當り設備は一進りでもなかつた。

□同年九月十九日、羅府外サンタアナ集会所より、四百九十五名來着し、續いて五回に分れて總計二千九百四十二名入所、更に十月二十九日には、總計二千名も來所した。斯くて全年後、總計四千九百九十七名が日本へ去る。大家族となり、二十九區に分れて収容されたのであつた。

□四十三年八月三十日には、日米交換船にて三十五名が日本へ去り、同年九月十五日、嶺巖湖より、二回に亘り、九百九十三名入所し、是と交換の形事で、日本行申請其他の理由に依り、百二十五名の一團が當地から退去し、四十四年六月二十一日、ゼローム閉鎖に依り、五百三十名の新來者を迎へた。

□鉄柵に圍繞され、天朝島所内の監獄状態は、外部のそれとは全然趣き異にし、企業的生産を爲すには機會と範圍が局限されてはゐるが、然し、戦時下事情の考慮から、所内では可及的均衡ある平和な生活をおこさへく、諸般の設備が施され、大衆が現れる。

□當局は所民の民衆的權利を主張し、及び自治の對し、及び助言を必要と認め、先づインデペンデンス以下約百五十名職員を招聘する。施政下には在任民有識者の氣任的幹事活動が開始され、集合地の東西も問はず、信教の異端を論ぜず、融和一元となつて平和郷の建設に一路邁進したつてあつた。

□所内百餘の設備漸く軌道に乗ると併し、茲に明確な自治政体の實現が要求され、市参事會は二世區支配人は一世々其職を承継し、分掌するものゝ、其処は何等の濟済を設けてWRAC當局と所民合同して一体となり、諸般の設備は順調に運行を見たりである。

□其後市参事會たる資格は一世にても可也との法規を更指令に持たざるも、既にして参事會會區長會は異身同體、唇齒輔車の關係にあり、諸事合議、協調の上善処を怠らざり、所民亦克く和衷懐同、終始一貫今日に及び範を他轉住所に示し得たりは、誇るに足

ると謂ひ得やう。

□ 學齡兒童に對しては、小中等教育が授けられ、就中高校生には堂々たる教室と公會堂より成る新建築が完成を見、幼稚園圖書室は素より成人教育講座の設置をも實現して、智能啓發の機會は均等に惠與され、遅滞下らぬ所民の理解に依り、奨學資金制度が設置され、將來人材養成の道が開かれた。

□ 所民の安寧秩序を保持する爲め、正門に憲兵隊の駐屯以外、少数の政府吏員が配下に、同胞の警吏を置き、所内の治安が萬全に維持される。

□ 公衆娛樂は、二世に對しては体育方面、一世には演藝、基將棋、他大衆的には活動映画の巡回興行があり、生華、道花、洋裁、刺繍、うた、術展、夜曲、長唄、詩吟、謡曲、菊太夫、音樂の演奏、絵画、書道、趣味の向上、品性の陶冶が行はれてゐる。

□ 社會部長デヨンソン氏が、自費廿五萬を投じ、先發隊に煙草、菓子、氷菓を提供して、友が開祖となり、茲に同胞出資二万五千帯、組合員三千名に近かき、共同消費組合が生れ、四十三年、春政府は所内中心地に三万五千帯を投じて、堂々たる百貨店を建築、大を借付せしめ、兩米營業は順風満帆、年四十万帯の賣上を見、資金の年利率六分、購買割戻金、亦年一割を配當実施するの盛況を呈した。

□ 食料品は所屬農園一萬英町に、野菜類を栽培するの他、養豚、養鶏、牧羊の部門あり、特殊の食料品を除いては、自給自足の施設がある。

□ 保健方面は、百名近い患者を收容するに足る、設備完全に近かい病院があり、政府吏員院長の下に同胞醫師、齒科醫、看護婦あり、所内巡回衛生検査官、嬰兒栄養品、配給者もある、尚所民自身より、醫師後援會を組織し、戦時下の物資缺乏と人力不足を補ふ、優遇方法を講じてゐる。

□ 赤十字社支部は毎年十何百名の社会加入に依り、活動資金を得、入院患者の慰問、貧困者の救済、古老者の慰安、軍人家族の諸檀手統、日本通信の取扱等、一切無料の社会奉仕をなす。

□ 消防局は直接防火の他に、所民は素より、清潔方面をも擔當、昼夜勤続、小火の裡に鎮火被害記録示すに足りず。

□ 情報部にはパイオニア新聞紙を毎週二回發行し、日英兩語を以て所民に必要なる情報を傳へ、緊急の場合には特輯、荒外を刊行し、報導陣の完璧を期してゐる。

□ 本年一月二日發表を見た沿岸撤退令の解除は、少数の拘束者も

除いては自由に沿岸方面への帰還を許容した。WRRAは此処
 と計り再轉住奨励に拍車を懸けたは勿論、通学児童を持つ
 家庭としては本學期終了を俟て、外所の計劃が進む、政府台
 局の所内閉鎖日程も定々本格的軌道に乗ったと謂えやう。

巫町所内諸団体

参事會

區長會

共同消費組合

赤十字社支部

醫師後援會

娛樂部

警察署

消防局

パイオニア新聞社

アリスタイ奉仕會

婦人聯盟

奨學資金委員會

成人教育部

親師會

佛教會

基督教會

Y. Y. Y. Y.
 W. M. W. M.
 B. B. C. C.
 A. A. A. A.

ボーイスカウト

ガールスカウト

生長の家

日蓮宗修養會

セブンスデー教會

天主教會

碁將棋俱樂部

年 齡 早 見 表

宣統元年 92 1854	宣統二年 91 1855	宣統三年 90 1856	宣統四年 89 1857	宣統五年 88 1858	宣統六年 87 1859	光緒元年 86 1860	光緒二年 85 1861	光緒三年 84 1862	光緒四年 83 1863
光緒五年 82 1864	光緒六年 81 1865	光緒七年 80 1866	光緒八年 79 1867	明治元年 78 1868	明治二年 77 1869	明治三年 76 1870	明治四年 75 1871	明治五年 74 1872	明治六年 73 1873
明治七年 72 1874	明治八年 71 1875	明治九年 70 1876	明治十年 69 1877	明治十一年 68 1878	明治十二年 67 1879	明治十三年 66 1880	明治十四年 65 1881	明治十五年 64 1882	明治十六年 63 1883
明治十七年 62 1884	明治十八年 61 1885	明治十九年 60 1886	明治二十年 59 1887	明治二十一年 58 1888	明治二十二年 57 1889	明治二十三年 56 1890	明治二十四年 55 1891	明治二十五年 54 1892	明治二十六年 53 1893
明治廿七年 52 1894	明治廿八年 51 1895	明治廿九年 50 1896	明治三十年 49 1897	明治三十一年 48 1898	明治三十二年 47 1899	明治三十三年 46 1900	明治三十四年 45 1901	明治三十五年 44 1902	明治三十六年 43 1903
明治卅七年 42 1904	明治卅八年 41 1905	明治卅九年 40 1906	明治四十年 39 1907	明治四十一年 38 1908	明治四十二年 37 1909	明治四十三年 36 1910	明治四十四年 35 1911	明治四十五年 34 1912	大正元年 33 1913
大正三年 32 1914	大正四年 31 1915	大正五年 30 1916	大正六年 29 1917	大正七年 28 1918	大正八年 27 1919	大正九年 26 1920	大正十年 25 1921	大正十一年 24 1922	大正十二年 23 1923
大正十三年 22 1924	大正十四年 21 1925	大正十五年 20 1926	昭和元年 19 1927	昭和二年 18 1928	昭和三年 17 1929	昭和四年 16 1930	昭和五年 15 1931	昭和六年 14 1932	昭和七年 13 1933
昭和九年 12 1934	昭和十年 11 1935	昭和十一年 10 1936	昭和十二年 9 1937	昭和十三年 8 1938	昭和十四年 7 1939	昭和十五年 6 1940	昭和十六年 5 1941	昭和十七年 4 1942	昭和十八年 3 1943
昭和十九年 2 1944	昭和二十年 1 1945	1946	1947	1948	1949	1950	1951	1952	1953

寄書者

青木甚作

藤野君

Henry H Okuda
Yukio Kurata
Yukio Kurata

Yukio Kurata
Yukio Kurata

James G. ...
No. 2

James G. ...
No. 2

寄書者
編輯及關係者

藤野君

藤野君

藤野君

Mrs. H. Kumamoto

藤野君

藤野君

藤野君

至誠國府向致之

藤野君

Mitau Swata

藤野君

H. Kumamoto

藤野君

藤野君

至誠國府向致之